

令和6年度 日本大学文理学部個人研究費 研究実績報告書

所属・資格 中国語中国文化学科・特任教授

申請者氏名 小浜 正子

研究課題		東アジアにおける家族とリプロダクションの比較的研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究は、東アジア各地域のリプロダクションの各局面を通じて家族・ジェンダー構造を比較歴史社会的に分析し、それぞれの社会の特徴を明らかにするとともに、欧米などと比べた東アジア社会全体の性格を浮き彫りにしようとするものである。東アジアは現在、世界でもっとも出生率の低い地域として注目されている。儒教文化圏とされるこの地域では、欧米に比して家族主義的な価値観が今も強いとも言われる。そのため社会的・政策的には、「伝統的」な性別役割に基く家族の再建によって少子化を食い止めようとする方向も見られる一方で、この地域では家族主義的な社会規範が影響力を持っているので、異性愛家族を形成して子孫を残すべしという規範を人々が忌避して「家族からの逃走」が起こっており、そのために出生率が上がらないのだという意見もある。いずれの立場でも「家族主義」がキーワードとなっている。本研究は、東アジア各地域の「家族主義」といわれるものは、地域によって異なった内容を持ち、また可変的なものではないかと考え、その具体的内容をリプロダクションを通して考察しようとするものである。
	研究の結果	今回はリプロダクションの中でも特に生殖補助医療（ART）の利用をめぐる東アジア各地（日本・中国・台湾・韓国・ベトナム）の状況を比較して、それぞれの地域の家族観や生殖補助医療の利用方法の特徴を考察した。その結果、現在の東アジア各地の中でも、生殖補助医療の実施状況には共通性と差異とが確認できた。これらの各地では生殖補助医療がさかんにおこなわれているが、とくに中国の体外受精の実施回数は世界一であり、出生児に体外受精児が占める割合は日本が約一割と最も多い。台湾では社会的卵子凍結が盛んにおこなわれているが、日本ではそれほどでもなく、中国では独身女性のそれは認められていない、などの違いがあった。また第三者からの配偶子の提供を受ける際の制度や志向にも地域によって違いが認められた。
	研究の考察・反省	今回の結果の中で特徴的だったのは、2019年に同性婚が可能になった台湾で同性カップルが国外で生殖補助医療を使って挙児を実現する事例が出ていることであり、それには台湾での代理懐胎が禁じられているなどの制度が関わっている。しかし台湾ではそれを解禁するような法案も提出されており、生殖正義の観点からも議論が行われている。これは見方によっては先端技術と家父長制との妥協とも捉えられ、先端技術が誰のどのような欲望を実現するために社会実装されるかについて、多様な視点からの議論が必要であることが確認できる。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所  研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>研究発表 日台研究交流会「東アジアの生殖補助医療とジェンダー／セクシュアリティの政治（東亞的人工生殖與性別政治）」、小浜正子・田間泰子「生殖補助医療の現状と課題ー日本を中心に」、2025年3月1日、於：台湾大学。</p> <p>研究成果物 小浜正子「【第二部】生殖補助医療が問いかけるものー一人間の尊厳、人権、権利、そしてその先へーイントロダクション」『生殖補助医療のこれからー社会の合意に至るために考えること（学術会議叢書32）』日本学術協力財団、2025年2月、71-78頁。</p>	